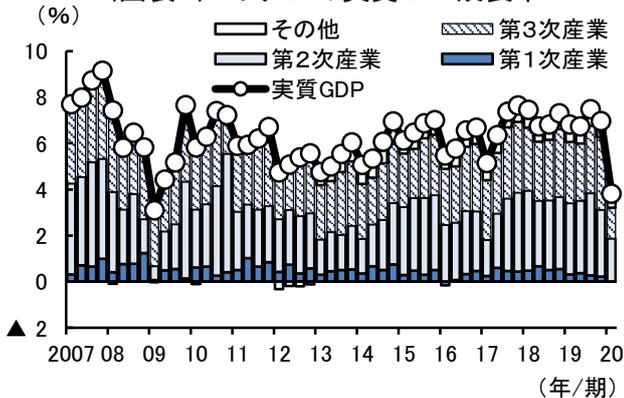


《新型コロナシリーズ No.1》

## 2020年4～6月期に本格的に悪化するASEAN景気 ～統計開始以来初のマイナス成長に～

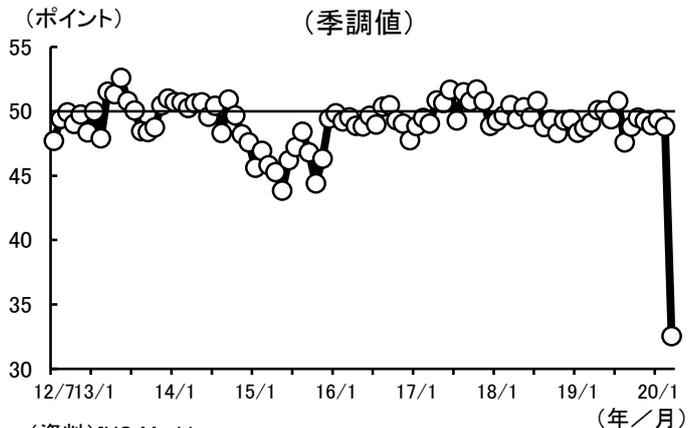
- (1) 新型コロナで2020年1～3月期のASEAN5経済（インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム）は、リーマン・ショック時並みに景気が悪化した様子。実際、ベトナムの1～3月期の実質GDPは前年同期比+3.8%と2009年1～3月期以来の低成長（図表1）。中国での感染爆発が、中国人観光客減少で観光業、原材料・部品不足で製造業に影響した様子。
- (2) もっとも、ASEAN5の景気は、4～6月期にさらに悪化する見込み。背景には、新型コロナの世界的な感染拡大に伴う、内外需の消失。
- (3) 外需では、財輸出とサービス輸出の両方が急減する公算大。3月中下旬以降、新型コロナの震源地は中国から欧米各国にシフト。これらの国々がロックダウン状態となったため、ASEAN5からの輸出も停滞。実際、3月のASEAN5の新規輸出受注は統計開始以来最低に（図表2）。また、ASEAN5の多くは全世界からの外国人受け入れを事実上停止。インバウンド需要の減少も大きく景気を下押し（図表3）。
- (4) 一方、新型コロナはASEAN5各国でも感染爆発。程度に差はあるものの、ASEAN5各国もロックダウンを実施。概ね生活必需品以外の生産活動や消費活動を大きく制限する内容。ちなみに、ASEAN5各国の全土で1ヵ月間ロックダウンが実施され、非必需品消費が▲30%減少したとすると、各国GDPを約▲0.8%ポイントずつ下押しすると試算。
- (5) これらの結果、ASEAN5の2020年4～6月期の実質GDP成長率は前年同期比▲0.4%と四半期ベースで統計が確認できる2000年以降で初のマイナス成長に。

(図表1)ベトナムの実質GDP成長率



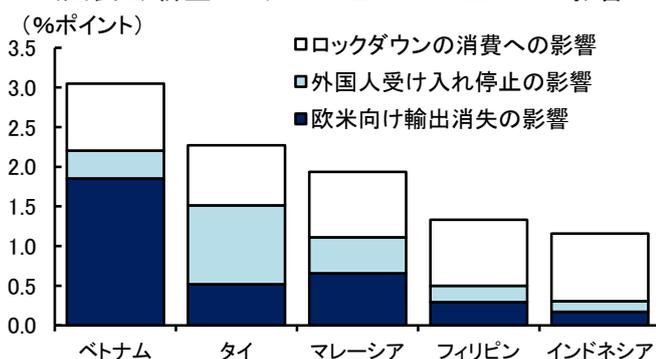
(資料)ベトナム統計総局、CEICを基に日本総研作成  
(注)その他は間接税、補助金、誤差不突合など。

(図表2)ASEANの新規輸出受注  
(季調値)



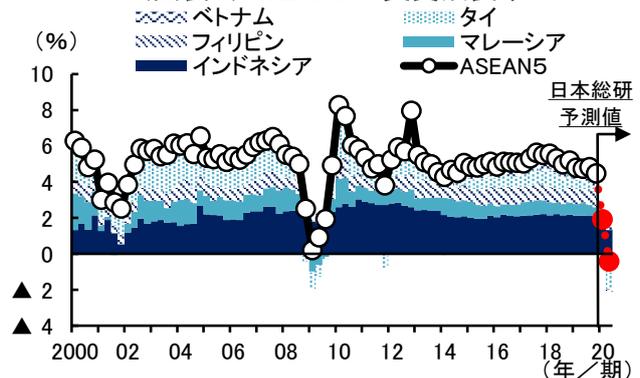
(資料)IHS Markit  
(注)ASEAN5にシンガポール、ミャンマーを含む。

(図表3)新型コロナのASEAN5のGDPへの影響



(資料)各国統計、IMF「IMFDOT」、CEICを基に日本総研作成  
(注)各影響が1ヵ月続いたと想定。ロックダウンの消費への影響は、国全土で非生活必需品消費が▲30%減と仮定。

(図表4)ASEAN5の実質成長率



(資料)各国統計、CEICを基に日本総研作成  
(注)ASEAN5は各国の成長率をドル建て名目GDP(後方4四半期平均)でウェイト。

【ご照会先】 調査部 副主任研究員 塚田雄太 (tsukada.yuta@jri.co.jp , 03-6833-6719)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。

